

第5巻概要

本第5巻が取り上げた昭和二八(一九五三)～三四年(一九五九)という期間は、紡績業にとって斜陽化が始まった時代と言える。戦前から戦後にかけて日本の中心産業であった紡績業が、不況の影響を受け、鐘紡に限らず全般的に経営不振に陥るとするのは初めての経験であった。

この不況は、昭和二五年(一九五〇)朝鮮動乱による特需景気や昭和二九年(一九五四)に始まった神武景気といった好景気のいわば反動のようなものであり、昭和三三年(一九五八)には戦後最大の不況の波が押し寄せるに至った。鐘紡についていえば、昭和三二年(一九五七)一二月および昭和三三年(一九五八)六月の決算報告によると、かなり不況の色濃い内容となっている。昭和三三年には、戦後急速に成長してきた化学繊維部門すら赤字に転じている。このような不況に直面し、昭和三三年来、鐘紡は様々な不況対策を実施している。まずは、かつては輸出の主力品であった蚕糸部門を本社から切り離した。そして従業員の賃金を1年間に1割削減し、さらに不採算工場であった博多、中津、中島の綿3工場、東京工場の織布部門、スフの山科工場等を閉鎖するという大規模なものであった。以上のような不況対策は鐘紡に限らず一般的に行われていた。この労働条件の悪化等が原因となり、日本各地では労働争議が勃発し、激化の一途を辿ることになった。

こうした情勢の中で鐘紡の労働者はどうであったのか。鐘紡の全従業員は「鐘紡護持の精神」に徹して武藤絲治の「鐘紡の不況対策」に従い、賃金の切下げに応じ、工場閉鎖にも協力した。いずれの工場にあっても労働争議は起きず、鐘紡は労使一丸となってただひたすら不況に立ち向かった。そうした尽力の結果、鐘紡は昭和三四年(一九五九)第4期には黒字に転換した。ついに昭和三五年(一九六〇)、紡績業社における売上・利益高のトップへと振り返り、鐘紡の奇跡と言われるまでに回復したのである。

ISSN 1345-8620
ISSN 2185-503X



Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究叢書 82

鐘紡資料叢書

株主總會編

第 5 卷

神戸大学経済経営研究所

伊藤 宗彦・國本 光正・加島 美和 編

第5卷 目次

鐘淵紡績株式会社第十五回定時株主總會會議錄
昭和二十八年十二月二十三日

∴
1

昭和二十八年十二月二十三日
第十五回定時株主總會挨拶

∴
21

鐘淵紡績株式会社第十六回定時株主總會會議錄
昭和二十九年六月二十三日

∴
29

昭和二十九年六月二十三日
第十六回定時株主總會社長挨拶

∴
45

鐘淵紡績株式会社第十七回定時株主總會會議錄

昭和二十九年十二月二十三日

昭和二十九年十二月二十三日

第十七回定時株主總會社長挨拶

鐘淵紡績株式会社第十八回定時株主總會會議錄

昭和三十年六月二十三日

昭和三十年六月二十三日

第十八回定時株主總會社長挨拶

鐘淵紡績株式会社第十九回定時株主總會會議錄

昭和三十年十二月二十三日

昭和三十年十二月二十三日

第十九回定時株主總會社長挨拶

⋮
119

⋮
101

⋮
93

⋮
79

⋮
71

⋮
53

昭和三十一年六月二十二日

鐘淵紡績株式会社第二十回定時株主總會議事速記録

∴
127

昭和三十一年六月二十二日

第二十回定時株主總會社長挨拶

∴
145

昭和三十一年十二月二十一日

鐘淵紡績株式会社第二十一回定時株主總會議事速記録

∴
155

昭和三十一年十二月二十一日

第二十一回定時株主總會社長挨拶

∴
173

昭和三十一年六月二十一日

鐘淵紡績株式会社第二十二回定時株主總會議事速記録

∴
181

昭和三十一年六月二十一日

第二十二回定時株主總會社長挨拶

∴
193

昭和三十三年十二月二十四日

鐘淵紡績株式会社第二十三回定時株主總會議事速記録

⋮
201

昭和三十三年十二月二十四日

第二十三回定時株主總會社長挨拶

⋮
221

昭和三十三年六月二十三日

鐘淵紡績株式会社第二十四回定時株主總會議事速記録

⋮
229

昭和三十三年六月二十三日

第二十四回定時株主總會社長挨拶

⋮
247

昭和三十三年十二月二十三日

鐘淵紡績株式会社第二十五回定時株主總會議事速記録

⋮
257

昭和三十四年六月二十三日

鐘淵紡績株式会社第二十六回定時株主總會議事速記録

⋮
279